



平成25年10月22日
内閣府（防災担当）

南海トラフの巨大地震モデル検討会（第38回）及び 首都直下地震モデル検討会（第20回）合同会議 議事概要について

1. 検討会の概要

日時：平成25年6月12日（金） 13:00～15:00

場所：中央合同庁舎第3号館 防災A会議室

出席者：岡村（行）委員、金田委員、平川委員、福和委員、古村委員、室崎委員、山崎委員の
南海トラフの巨大地震モデル検討会各委員

岡村（行）委員、平田委員、福和委員、古村委員、山崎委員の首都直下地震モデル
検討会各委員

2. 議事概要

最大クラスの強震断層モデルの長周期地震動の計算手法などについて事務局から説明を
聴取し、委員間で議論を行った。今回の議事の概要は次のとおり。

【南海トラフの巨大地震モデル検討会】

○今回SMGAだけで揺れを予測していくときに、全体のマグニチュードはどうやって算出して外へ
示すことにするのか。

○2012年8月に出した最大クラスから細かいパラメータを変えているのは新しい知見を入れた
からであると理解しているのか。

【首都直下地震モデル検討会】

○地震のときに地表に断層が出たかどうかというよりは、活断層としてそういう地形学的な検討と
かで活断層として認められていたかどうか、認めることができるかどうかということが重要。活
断層なしであらかじめ震源を特定しにくい地震については、学術的にも解釈が分かれるところ
がある。判断の根拠となる資料や考えを根拠を示して説明したほうがいいのか。

○首都直下ではAVS30は $-\sigma$ でなくて（メッシュ内での平均的特性を取るということで） μ でいくこ
とが方針だということによいか。

○このモデル検討会では、地震学的に考える最大級のモデルを示すことは可能だが、切迫性
をあわせて出せないのが弱い。最大級のモデルと併せて発生確率を、これが算出できないな
ら目安を出すことが重要。

○スラブ内地震の想定をするときは、防災的観点から県庁所在地の下に活断層を引くのと同じ

発想で引いたということ、かなり明確に出していただいたほうがよいのではないか。

○今回は地震の規模をMwにて統一して説明するというのだが、一応換算できるけれども、実際は結構ばらつきがある。Mwで整理するのであれば、工夫をしないと混乱するのではないか。

○スラブ内の地震の統計において南関東におけるM6以上の地震のスラブ内地震を調べているが、フィリピン海プレート全体ではないので、サンプルをもう少しふやすことはできないか。

<本件問い合わせ先>

内閣府政策統括官（防災担当）付

調査・企画担当参事官 藤山 秀章

同企画官 中込 淳

同参事官補佐 平 祐太郎

TEL : 03-3501-5693（直通） FAX : 03-3501-5199